



米合衆國貨幣委員報告書

第壹号二



35.10



114
A1406
2

112



孰レク單本位ヲ設ケレ起原

度ヲ設ケルヲ國是ト認メレナリ蓋シ此制度ヲ設ケレモノハ当
 時兩國ノ金坑ニ産スル所寡ニ盛大ナル而已ニ拘ハラズ尔采又
 金ノ産出益々増殖スヘント諸民専ラ之ヲ臆測マレ処ブルニ依
 レリ其項英國ニ於テモ彼ノ有名ナル学士デクエンセル氏ハ金
 坑産ノ程度ヲ計リ明察ニ比較豫美表ヲ製シタリ則チ彼ノ算用
 ニ拠レハ例年ノ金坑産凡ソ平均七千万磅、ステルリンクノ價額
 ニエレリト云々則チ貿易銀ノ三億五千万弗ニ当ルヘン斯ク豫
 美表ノ批証アルニ際シテワイルド氏及ヒ其他ノ徒ハ将来
 貨幣ノ下落アルヲ恐ルハヨリ豫メ其方法ヲ設ケルノ目下ニ切

小野一郎譯

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

義
書

要ナルヲ論述シタリ是則チ政州ノ諸國カ金價ヲ制メンカ爲メ
始メ銀本位ノ制度ヲ設ケ以テ一般ノ物價ヲ騰上セシメント欲
シタル処ナリ
リッセルレール氏一千八百五十六年ト同ク其五十七年トノ二
ケ年ニハ左ニ金價ノ下落スル所以ヲ述ヘタリ
儲テ年々一般ノ市場ニ湊マレル金價額凡ク平均拾億万ラ
ンクニ下ラスト云フ則チ貿易銀ノ二億万兩ニ當レリ
カリホルニヤ洲及ヒアウストラリア洲ノ兩國カ爾采永リ金
ノ産出ニ盛ナルハ金貨次第ニ増殖スレハ到底金ノ市價ハ
下落ヲ免レサルニ至ラン
格外ニ銀金ヲ産出スレハ金貨世上ニ溢レテ竟ニ民業ノ所用
ニ供スルノ道ナカルヘシ是ニ於テ金ノ價値ハ決シテ下落ヲ
免ル、克ハス是レ吾人カ豫メ保証スル処ナリ

一三

百般ノ人事ニ於テ活機ナレト認メサル以上、早晚金ノ價値
ヲ損ナル貯蓄ニ會スル処アテントス是レ吾人カ切ニ戒ムラ
要スル処ナリ
前文ニ述ル如クチッセル氏及ヒ其他ノ徒カ屈竟ノ議論ヲ
吐キシニ依リ政州ノ諸國ハ皆チ金價ヲ制メンカ爲メ銀本位ノ
制度ヲ設ケタリ一千八百五十七年日耳曼及ヒ墺地利亞ノ改革
ヲ以テ最モ較著ナル者トス當時政州ハ一般ニ此制度ヲ是認セ
シト雖モ唯チ仙蘭西ノミ敢テ之カ奉行ヲ欲セザリシナリ而テ
爾後一千八百六十五年ニ及テ銀本位ヲ廢シ又金本位ノ制度ヲ
設クルニ至レリ此年羅甸國カ聯邦政治ヲ興セシテ以テ各國ノ
大會議ヲ設ケタリ此時ニ於テ比利時國以テ太利國瑞西國カ金本
位ノ制度ヲ設ケント主張セザルニ克ヒ佛國ノ排斥スル処トナ
レリ然リ而シテ斯ク銀本位ヲ金本位ニ改メント各レ者ハ當ニ

貨幣上ノ要義ニ拘ハラズ其実ハ貨幣ノ重量ニ依リ其ノ形体ヲ
減少セント企望シタルナリ備テ銀熱レカ単本位ヲ設ケルノ
目的ヲ尋ヌルニ凡ク貨幣ノ價下落シテ物價著シク騰貴スレハ
現ニ金貨人及ヒ給料ヲ受ル人ノ類ハ必ス多少ノ損失ヲ免ルハ
能ハス此ヲ以テ單本位ヲ設ケ金銀熱レカ通用上ノ權カヲ其一
方ノ專有セシムルハ豫メ斯ル弊害ヲ除却スルノ方便アリト
云ヘレ是レ二十五ヶ年前ヨリ各邦ノ人民カ貨幣法ノ主義ト認
メテ六テ願ル之カ切論ヲ要スル処ナリ
一七八百六十九年佛國ノ貨幣取調委員ノ畧説ニ於テ兩本位ノ
得失ニ関シ各々其所見ヲ述ヘタリ則テ先ツ金本位ノ主旨ニ於
テハ左ノ如ク著論シタリ
儲テ二十年以來一般ニ物價ノ騰貴セシモノハ軍費凶作ニ由
民河ノ増殖セシニ由テ此変状ヲ現ハセシカ
然リ而シテ銀

イ
四

價著シク下落セシモノハ諸品ノ價額ト金貨ノ生出額ト趣加
シテ物價ノ騰貴セシニ依レリ蓋シ一千八百四十七年頃、各
地ノ金銀坑ニ産スルモノ凡ク一ヶ年八千万弗價額ナリ
ク現今ハ凡ク一ヶ年二億万弗ノ巨額ヲ産スルニ至レリ但シ
此價額ハ殆ント往年ノ價額ニ三倍スルニ及レリ然ラハ容易
ニ金銀價ノ下落スル所以ヲ悟ルヘシト茲ニ明細ニ下落ノ実
証ヲ認メ難キ処アリト云フ然レモ必シク注意スレハ其証拠
ヲ得ルニ難カラサルヘレ何トナレハ給料ヲ以テ活計ヲ立ツ
ル輩ハ卒生ノ所得金ハ往時ニ異ナラズト雖モ目下物價ヲ求
ムルハ現ニ其財力寡キヲ以テ多少ノ損失ヲ免レサルナ
リ備テ政府ハ貨幣ノ重量及ヒ其本位ヲ定ムルノ特權アルカ
故宜シク方畧ヲ以テ金銀價ノ變動ヲ制スルヲ得ヘレ故ニ金
銀貨熱レク其價ヲ下落スルノ趣頭ハセシハ速ニ單本位

ヲ設ケテ其幣害ヲ避クヘキナリ
茲ニ又兩本位ノ主旨ニ於テハ左ノ如ク答辨シタリ
晚近ノ經濟家ハ非常ニ金銀ノ産出ヲ増加セシヨリ其價一割
乃至ハ一割五分ヲ減シタリト云フ 備テ斯ル弊害ヲ救ハント
欲セハ銀債ヲ廢シテ金本位ヲ設クルニ在リト云ヘリ然レド
二十年以來大ニ金坑ヲ發シ盛ニ鑛産ヲ興シタルモ未タ民間
ニ弊害ノ起リシ処ナク却テ新金ノ字内ニ散布セシヨリ諸般
ノ職業頗ル振進シタル景状ヲ現ハセリ然リ而テ竟ニ金ノ價
値稍々下落ヲ醸セシ処アリタリ姑クニユマーラ氏ノ所見ニ
拠ルニ金銀ノ通用高ヲ増セシハ九ノ一ケ年平均其比例ハ百
分ノ三ニ當レリ又金銀交替上ノ景况ヲ見レバ九ノ一ケ年
均其取及高百分ノ三ヲ増セリ此ニ件ハ恰モ平衡ヲ持スル者
ノ如シ斯ル景况ナレハ未タ銀債ヲ廢シ本位ニ歸スルノ時機

イ五

ニアラスト云フヘレ何トナレハ數年以來
年ニ於テハナリ則テ一千八百五十三年ニ於テ金坑ヨリ
二億ヲ弗ヲ産セリ尔後漸ク衰状ヲ現ハレ現今ニ至テハ其ト
額一億四千ヲ弗ニ過キタルナリ斯ル事情アルヲ顧ミス妄ニ
銀債ヲ廢シテ金本位ヲ設クルモ將來若シ金ノ産出ニ乏シキ
ハ字内ニ如何ノ妨害ヲ現ハセルマ未タ知ル可カラサルナ
リ
一千八百七十三年和蘭ノ貨幣取調委員ハ概ニ金本位ヲ是認シ
テ以テ左ノ所見ヲ述ヘタリ一千八百四十八年以來ハ非常ニ金
ノ産出ヲ増シ一般ニ貨幣ノ價ニ下落ヲ起セリ將來若シ此景况
ヲ變マスレテ金ノ産出愈々増進スルアラハ貨幣ノ融通ハ頗ル
充足スルノ恐アルヘレ然レニ銀行ヲ廢シ金本位ヲ設クレハ容
易ニ金ノ騰貴ヲ杆制スルヲ得ヘレハヘリ

又其詞ニ曰ク最近非常ニ金坑ヲ掘ルニシテ金融ノ道ハ遂ニ
往時ニ優クル、処アリト云モ、十一年以來吾國ノ經驗シ
タル処ニ、拙ルハ未ダ金銀貨ノ下落セシ模様ナリ却テ金ノ價
値ハ常ニ騰貴ノ状ヲ顯ハレタリ

一千八百四十八年以後日耳曼カ銀貨ヲ廢シ金本位ヲ設クル迄
歐洲ノ諸國ニ於テハ金銀ノ價值更ニ昂低ヲ生セシ処ナレト云
ヘリ其頃カルホルニア州及ロウストラリア州ヨリ非常ニ金
ノ産出セシノミナラス一千八百六十五年頃子ワタリ州ヨリ新
ニ又銀ノ産出セシニ依リ金銀價ハ孰モ價料及ヒ物品ニ當レル
價值ヲ損シタリ是ニ於テ直ニ諸品ノ騰貴ヲ促シレカ故定額ノ
歳入ヲ算スル者ハ為ニ損害ヲ蒙リタリト云ヘリ抑モ兩本位
制度、~~元~~ル間新ニ金銀孰レカ産出スル所ハ現ニ其價幣ヲ増加ス
ヘシ、~~元~~強ク金銀總体ノ價ニ影響ヲ与フルノミナラズ、~~元~~金ト銀トノ

イ云

關係ニ、更ニ變動ヲ起セル処ナカレヘシ
一千八百五十七年ナワルレル氏カ切ニ金相場ノ下落ヲ痛論
セシハ金ノ實際ニ就テ其價值ヲ落マレト云フナリ則チ
其說ニ曰ク兩本位ノ制度ヲ設クル間ハ決シテ銀ノ價位ヲ変ス
ル恐ナレ故ニ兩本位ヲ設クル邦ニシテ苟モ内地ニ銀ノ存在ス
ル以上ハ銀ノ價值ヲ変スル極メテ希ナリ然リ而テ定額ノ歳
入ヲ有スル者ノ利益ヲ保護センニハ金銀孰レカ單本位ノ制度
ヲ設ケサル可クテナルナリ蓋シ方今金ノ産出特ニ盛大ナリト
認ムルヨリ各國ハ槩チ銀貨ヲ廢シテ金本位ヲ設ケンナリ是認
シタルナリ
諸君其頃金銀ヨリ感ニ礦物ヲ祭マレニ依リ一体ニ金銀價ノ相
場ヲ下落シタリト云ヘリ斯レ弊言ヲ改ムント欲シナワルレ
ル氏ハ切ニ金銀孰レカ以テ單本位ト定ムル、固是タルヲ述ヘ

レナリ
一千八百六十五年羅甸ハ聯邦政府ヲ興セシテ以テ各國ノ大會
議ヲ設ケケリ必時ニ於テ比利時伊太利瑞西ノ諸國ハ銀價ヲ廢
レ金本位ヲ設ケンコトヲ主張セシト茲ハ當時銀相場ノ金價ニ對
シテ其價值ヲ落カハルノミナラス其後ニ至ラニ銀相場ノ下落
ヲ促セシコトナレ而テ合衆國ノ銀鑛ニ於テハ毎年漸リ一千百萬
弗ヲ産セシノミ又一千八百七十一年日耳曼ハ銀價ヲ廢シ金本
位ノ制度ヲ設ケシト茲ハ其時金銀價ノ價位ハ依然トシテ之カ
為メ其關係ヲ攪動カレシ処ナシト云ヘリ
思フニ日耳曼カ銀本位ヲ設ケレハ英京龍動府ハ直ニ市場ニ金
銀價ヲ變ヘシト茲ハ其變動寡ナケレハ日耳曼ノ金銀價ハ為
ニ其變動ヲ蒙ルニ足ラサルヘシ
一千八百五十七年日耳曼カ金價ヲ廢シ銀本位ヲ設ケレ者ハ當

イセ

時金相場ノ銀價ニ對シテ其價ヲ落セシ所以ニアラス而テ亦
一千八百七十一年該國カ銀價ヲ廢シ金本位ヲ設ケレ者モ當時
銀相場ノ金價ニ對シテ其價值ヲ落セシ所以ニアラスト云フ夫
レ此ノ如ク日耳曼ハ金銀ノ本位ヲ更迭セシト茲ハ唯々其主旨
ト定ムル処ハ金銀價ノ下落ヲ防カントスルノ一点ニアレハ只
管ハ單本位ノ制度ヲ更迭レテ以テ目下ノ弊害ヲ救ハントノ方
便ナルノ故ニ日耳曼ハ一旦金銀ノ單本位ヲ設ケレト茲ハ特
ニ之ヲ是認シタルニアラサルヲ知ルベシ
諸テ日耳曼カ銀本位ヨリ金本位ニ改革セシ所以ハ全ク左ニ原
因ニ根基マリト云フ可シ第一其頃英國カ專ラ銀價ヲ廢シ金本
位ヲ設ケンコトヲ主張セシニ依リ歐洲ノ諸國ハ皆テ此說ニ壓服
ナレテ竟ニ金本位ヲ是認スルニ至レリ第二米國ノ子ワタア州
ヨリ大ニ銀鑛ヲ發セシニ依レリ

一千八百六十一年ワスガノ地方即チカムストック、ロヅトニ
於テ大ニ銀鑛ヲ發スルノ趣アリタリ依之一千八百六十三年桑
港ニ於テ三千ノ鑛業會社ヲ設ケ三万人ノ株主ヲ募リ資本金拾
億万弗ノ見据ニテ大ニ鑛産ヲ興サンコトヲ企テタリ諸テ歐洲カ
此傳聞ヲ得ルヤ大ニ其世益アルヲ喜ビ佛帝ハ直チニ銀鑛巡見
ノ特命ヲ下シ委實ヲ派遣スルニ至レリ爾後一千八百六十六年
ニ至テ歐洲ニ專ラ米國銀坑ノ風評行ハレタリ斯ク海外ニ此説
ノ傳播マレ者ハ全ク我カ政府ノ銀鑛調査人タルロスブロン氏
カ復命辱ラ太平洋地方ノ鑛坑ト題シテ其著述アルニ依レリト
云フ則チ其言ニ云フ

熟々鑛坑ヲ考フルニ其進度ヲ速カナル世ノ需用ニ越スル處
アリ思フニ此有様ニテ愈々増進スルハ忽チ鑛物ノ價ヲ下
落スヘシ然レ氏鑛産ハ今日ヨリ遠ニ盛大ノ地域ニ至ル可シ

八

儲テ當時メナレコペリウ及ヒボリウヤノ昔銀鑛ハ孰レモ世
ニ殷富ノ名アル所ナリ故ニワスガノ地ニテ使用マレ如キ器
械ヲ以テ該地ノ鑛坑ヲ發掘セハ客易ニ鑛産ヲ増シテ世界ニ
溢ルニ至ラン而テ將來尚ホ銀鑛ノ發見ナル處アリト云
ヘリ就中太平洋地方ニ在ル合衆國ニ於テハ未タ開坑マラレ
サル者夥多ナルヘシ故ニ宜ク鑛業ヲ勉ムルハ益々鴻益ヲ興
ス處多カル可シト

將來新ニ銀鑛ヲ發スル處アリト臆想ヲ懷ケル者アリタルモ往
年妄ニ金鑛ヲ發スヘシト云ヒレ如ク遂ニ此希望ハ画餅ニ歸レ
タリ然リト雖モ一旦斯ル妄説ノ世上ニ行ハレシヨリ各國ノ有
財家ハ大ニ之ヲ恐レ諸政府カ銀貸ヲ廢シ金本位ヲ設ケンコトヲ
切論スルニ至レリ斯ク有財家ノ恐心ヲ起マレ者モ全ク事由ア
リト云フヘシ如何トナレハ當時大ニ銀鑛ヲ發スル所ハ銀相場

七

ノ金貨ニ對シテ下落ヲ起セルノミナラス往年盛ニ金鑛ヲ發セ
シニ方リ一体ニ金銀貨ノ相場ヲ落セシ如ク直ニ諸品ノ騰貴ヲ
促スガ故債主及ニ定額ノ歲入ヲ有スル者ハ現ニ多少ノ損分ヲ
免レサル所アレハナリ

銀坑ノ妄想説

一千八百五十六年以來吾儕ノ經驗セシ處ニ於レハ金ノ産出ハ
毎年衰状ヲ顯ハシ銀ノ産出ハ毎年盛大ニ起クト云々近頃金坑
ノ表状ヲ増セシハ銀坑盛大ノ比ニアラサルナリ斯ル情實ヲ惟
レハ今後金坑ノ起ハ決シテ此有様ヲ変セサルヘシ然ルニ往々
非常ニ金銀坑ノ産出ヲ増スヘシト云々或ハ又金銀坑ノ産出ハ
貨幣ノ需用ト並ニ進テ愈々盛大ノ起ヲ顯ハスヘシト云フ者ア
リ將來若シ此想像ニ違ハカラシメハ方今ヨリモ一層金ノ産出

ヲ増殖スル處ナカレ可カラズ然ルニ目下ノ銀坑ハ之ニ異ナリ
テ槩子具景況左ノ如シ
諸銀鑛ノ景況ヲ察スルニメキシコ中央米利堅及ニ南米利堅ノ
銀鑛ハ今後決シテ往時ニ優レル如キ産出ノ模様ヲ現ハサ、ル
ノミナラス當時銀鑛ハ往時ノ産出ニ優レルヨリモ却テ其額寡
シナル處アリ而テ熟々夫等ノ諸州ヲ見ルニ人口財本技藝政治
ノ趣ハ更ニ振進セシ處ナシ是ニ由テ之ヲ考ルモ今後盛ニ銀鑛
ヲ發スルノ模様ヲシト云フヘシ
合衆國ハ特ニ巨大ノ銀鑛ヲ發セシ文明ノ邦ト云フベシ何トナ
レハ斯ル殷富ノ名アル銀鑛ハ政州ノ諸國ハ勿論英人ノ藩屬地
ニモ未ダ嘗テ目撃セサル處ナリ借テ一千八百六十年以來一体
ニ銀ノ融通ヲ増セシモノハ槩子合衆國ニ在テ大ニ銀鑛ヲ發セ
シカ故ナリ而テ當時世人ノ專ラ監定セシ處ニ於レハ將來盛ニ

鑛産ヲ増進スルモ亦皆ノ合衆國ノ銀鑛ニ在リト云ヘリ
一千八百七十六年英國倫敦府ノ地金銀賣買人ヘクトルヘイ氏
ハ銀鑛ノ産出表ヲ製シテ該地ノ銀取調委員ニ差出セリ蓋シ同
氏カ此事務ニ長セシトハ屢々耳目ニ觸ルル処ナリ儲テ其産出
表ニハ一千八百五十二年ヨリ同ク七十五年迄テ全二十四ヶ年
分ヲ掲出シタリ又此年間ニ於テ字内ノ諸銀鑛(米利堅ヲ指テ)ハ
年々産出ノ程度ヲ変マス大抵一ヶ年二百萬磅ヲ産シタリ則テ
其價額ハ貿易銀ノ一千万弗ニ當レリ但シ此費用ノ中エ西班牙
ノ鉛ヨリ分析セシ銀ト英國人ノ分析シタル輸入銀トヲ加ハセ
リ茲ニ右ノ二十四年ヲ三期ニ分テ再々之ヲ精算メンニ最初ノ
二期ニ在テハメキシコ及ヒ該地ヨリ南方諸國ノ銀鑛ハ年々産
出ノ程度ヲ變マス大抵一ヶ年六百萬磅ヲ産シタリ然リ而テ最
後ノ一期ニ至テハ鑛産大ニ例年ニ異ナラスト雖モ稍々少差ヲ

生セリ故ニ其割合凡ソ一ヶ年平均五百十二萬五千磅ニ當レリ
又一千八百七十四年及ヒ一千八百七十五年ノ報告書ヲ見ルニ
銀ノ産出各年五萬萬磅ヲ産セリ今ヤ明ニ斯ル事實ヲ認ハレハ
米利堅ヲ指テ字内ノ諸銀鑛ニ産スル總額ハ極メテ寡少ナルノ
ミナラス例年銀鑛ノ産出額大ニ變状ヲ顯ハセシ処ナキヲ知ル
ヘシ
儲テメキシコ及ヒ該地ヨリ南方ノ諸國ハ一体ニ銀坑ノ趣感大
ナリト云フトモ當時銀ノ産出ハ往時ニ優レルヨリ却テ衰状ヲ
顯ハシタリ然ルニ世人ハ此地方ニ未タ鑛脈ノ蟠屈スル処アリ
ト信依スルヨリ早晚咸ニ銀坑ヲ發スヘシト云ヒ望ヲ將來ニ屬
スル者アリ然レニ銀鑛ノ夏業ヲ發メシハ今ヲ距ル殆ト四百年
ニ垂々スルト望ニ鑛業ノ方法及ヒ其成果ニ於テモ未曾有ノ變
革ヲ顯ハセシ処ナシ然ルト雖モ將來若シ合衆國ノ人民ヲシテ

幸ニメキシコ州ヲ領スル如キ時運ニ會ヒシメハ又此鑛業ヲ一
変スルモ未タ期ス可カラサルナリ
ホンボルト氏ノ説ニ依レハ一千八百年ノ頃メキシコ州及ヒ該
地ヨリ南方ノ諸國ニ於テ毎年銀坑ノ産スル處七百零七万一千
八百三十壹磅ニ上レリ借テ又ゼコグ氏ノ説ニ依レハ一千八百
零九年ヨリ一千八百二十九年ノ間ニ於テメキシコ州ノ人民ハ
革命論ヲ起シ西班牙政府ニ抗敵セシニ依リ大ニ地方ノ鑛業ヲ
怠タレリ故ニ此年間ニハ銀ノ産出漸ク一ケ年平均三百十零
九千磅ヲ産セシノミ斯ル厄運ニ會ヒ姑ク鑛業衰タリト雖モ尔
後再ヒ銀ノ産出ヲ増加シ一ケ年平均六百万磅ヲ産スルニ至レ
リ而テ又方今ニ及ヒ一ケ年大抵五百万磅ヲ産スルナリ
一千八百七十五年以徃五ケ年間合衆國ノ銀鑛ニ於テ九ツ一ケ
年平均二千三百八十万磅ヲ産シタリ

一千八百五十六年以徃五ケ年間米利堅ニ於テハ更ニ銀ノ産出
セシ處ナレ試ミニ今マ一千八百七十五年以徃五ケ年間宇内ノ
諸銀鑛ヨリ毎年産出セシ趣ヲ以テ一千八百五十六年以徃五ケ
年内鑛産ノ有様ヲ比較シ見レハ現今ハ合衆國ノ銀坑ニ於テ新
ニ二千三百八十万磅ヲ増シタルモメキシコ州及ヒ該地ヨリ南
方ノ諸銀鑛ニ於テハ四百三十五万三千百三十磅ヲ減シタリ而
テ各國ノ諸銀鑛ハ皆十例年ノ定額ヲ變セシ處ナレ斯クニ様ノ
年代ヲ比較シテ以テ鑛産ノ増減高下差引スレハ毎年宇内ノ諸
銀鑛ヨリ一千九百四十四万六千八百七十磅ノ産出ヲ増セシ形
ナリ
ワムストツクロツトノ銀鑛ハ寂モ巨大ナルモノニテ合衆國鑛
産ノ過半ニ居レリト云フ故ニ該坑ノ如キハ遽ニ鑛産ヲ過絶ス
ルノ恐ナシト雖モ今ヤ鑛業大ニ進歩シテ凡ソ坑底平均一千八

百尺ノ深キニ至ラハ恐ク鑛脉ノ極度ニ達スヘシ然ラハ将来必
ス欠乏ノ顯ハル処アルヘシト思ハルハナリ但シ此説ハ銀鑛手
扣帳ニ述フル処ナリ
借テ衆人ノ臆度ニ披レハ金銀鑛ノ出產ニ富ミ世ニ最モ有名ナ
ル鑛業アル地方ニ在テハ金銀ノ相場自ラ之ニ牽掣サレテ其市
價ハ常ニ安廉ナル状アリト云ヘリ
今後吾人ノ銀鑛ヲ發スル希望ヲ屬スル処ハロケイモウンテン
及エマールラアヌワタア州ヨリ西ノ方角ニ在リト思ハル蓋
シ此地方ニハ一体ニ鑛脉ノ蟠屈スル処家モ許多ナリト云ヘリ
果シテ茲ニ鑛業ヲ創ムルハ陸続鑛産ヲ發スルノ地域ニ至ル
ヘシト云フ凡ソ銀鑛ノ盛大ニ起ク進度ハ極メテ遲慢ナルモノ
ナレバ仮令此地方ヨリ盛ニ鑛産ヲ發スルモカムストツクロツ
トノ銀鑛カ漸々衰微ニ赴ケルヨリ一層進歩ノ度ガレル処アル

ヘシ
方今世ニ新銀鑛ノ發見ナルハ処アリト云フモノアレハ天然ニ
斯ル時運ヲ妨ケルノ事情アレハ近代ニ在テハ決シテ大ニ銀坑
ヲ發スル処ナカレヘシ
試者業スルニ凡ソ鑛坑ノ發見ハ一定ノ
餘理ニ因スル者トス此ヲ以テ盛ニ金鑛
ヲ發スル際大ニ銀鑛ヲ發スルハ常ニ如何ナレ
但シ此説文ニ天然ノ事情アリトハ則チ此謂ヒナリ
ハホシテイ及ヒカムストツクロツドニ在テ始テ銀鑛ヲ發メレ
ヨリ既ニ三百有餘年ヲ經歷セシト云フ現時未タ鑛産ヲ絶シタ
ルトナク加之金銀鑛ノ區域ヲ視テ熟々其地理ヲ按スルニ兩地
ノ如キハ各其境界ヲ異スルモノト認知スルニ足レリ是ニ由テ
之ヲ考レハカリホルニア州及ヒアウストラリア州ノ金鑛ニ在
ケル如ク或ハ又ホシテイ及ヒカムストツクロツドノ銀鑛ニ在
ケル如ク斯ル巨大ノ新鑛ヲ發スヘキ理由ヲ認定スル処ナキナ
リ

儲テ将来合衆國ノ専務トスヘキ 往年ヨリノ鑛業ヲ益々宏大
ナラシムルニ在ルルニ然リ而テ斯ル鑛業ヲ進メンニハ首トシ
テ財本及ヒ學カヲ一層増殖セサル可カラズ又出鑛場ノ地方エ
運輸ノ便ヲ開設セサル可カラズト云フ然リ而テ克ク實際上ノ
經驗ニ依レハ容易ニ斯ル改進ヲ期ス可カラサル者アリ如何ト
云フニ此鑛業ニ財本ヲ委スル者ヲ説得スルノ年月ヲ要スル処
アレハナリ加之此銀鑛地方ニテハ鑛業ノ費途ニ供スル程ノ資
本金ヲ求メ難シ故ニ之ヲ遠隔ノ地ヨリ募集セサルヲ得ナレハ
ナリ
将来銀ノ産出ハ總体増進スル処ナント云ヘルモ其完全ク産出
ヲ増カスト云フニアラス唯タ近頃ハ年々金坑衰ヘテ其産出ヲ
減スル処アリト雖モ銀鑛ハ僅ニ其産出ヲ増セシミニテ漸ク
金ノ所缺ヲ補フニ足ラサル程ノ有様ナリ若シ此事情ヲ確實ナ
リ

リト認メ一体ニ金銀ノ産出高ヲ見レハ敢テ増進スル処ナト
云フモ不可ナルナレ然ラハ則テ人口ノ蕃殖ニ從テ資本ヲ給ス
ルニ足ラス又禍災毀損金細工等ニ依テ世上有金ノ積スル処ヲ
償フニ足ラセルナリ
ソウク氏及ヒニウマーチ氏ノ費用ニ拠レハカリホルニヤ州及
ヒアソスタラリア州ニ始テ金鑛ヲ發見セシ以來五ヶ年間一千
八百五十六年以テ五ヶ年ヲ云フハ凡テ一ヶ年平均二千九百十
七万六千磅ヲ産シタリ而テ一千八百七十五年以テ五ヶ年間ハ
右ノ兩地ヨリ凡テ一ヶ年平均二千零三十零八千磅ヲ産シタリ
今ヤ此限ヲ以テ産出額ヲ比較スレハ往年ヨリ鑛産ノ減セシ割
合九ノ一ヶ年平均八百八十六万七千八百磅ニ當レリ
ヘクトルヘイ氏ノ費用ニ拠レハ兩地ノ金坑ヨリ一千八百五十
六年以テ五ヶ年間凡テ一ヶ年平均二千九百九十三万五千磅ヲ

産シタリ而テ一千八百七十五年以迄五ヶ年間凡ソ一ヶ年平均
一千九百六十四万磅ヲ産シタリ今此年限ヲ以テ其産出額ヲ比
較スレハ往年ヨリ鑛産ノ減セシ割合凡ソ一ヶ年平均一千零二
十九万五千磅ニ當レリ
斯クニ子ノ考究セシ算用ニ拠リ金鑛ノ産出ヲ減セシ比較表ヲ
兩様ニ掲出シタリ今マ姑ク其減額ノ最モ寡ムナルモノヲ以テ
一千八百七十五年以迄五ヶ年間銀鑛ヨリ産セシ総高ニ比較ス
ルニ金ノ減額頗ル許多ナルヲ知ラル、ナリ然レモ右ノ年間ニ
於テ合衆國ノ銀鑛ハ大ニ鑛産ヲ繁シ凡ソ一ヶ年平均二千三百
八十万弗ニ餘レル巨額ヲ産シタリ然リ而シテ此銀額ニ尚ホ一
倍銀ノ産出ヲ増進スル処アラハ殆ト金ノ減額ヲ償フニ足ルヘ
シト望ム未タ全ク均等ヲ得ルト云フ可カラカルナリ
一千八百五十六年以後總テ金銀鑛ノ模様ハ稍シ衰状ヲ顯ハシ

タリ故ニ將采鑛産ハ愈々衰微ヲ促スト云ヒ或ハ尚ホ感大ニ趣
クト云フ者相々半スルニ至レリ然レモ又其一説ニ一千八百五
十六年大ニ金銀鑛ヲ繁シ感ニ鑛産ヲ興セシヨリ以テ二十ヶ年
間ハ別ニ衰状ヲ顯ハセシ程ノ模様ナリ常ニ鑛産ノ潮勢ヲ変セ
シ処ナキ故貿易及ヒ人口ノ進度ヨリ鑛産ハ大ニ増シテ世ノ
需求ヲ壓スルノ有様トナレハ直ニ金銀貨ノ價值ヲ損ヒ諸品ノ
騰貴ヲ促シテ忽チ民間ノ弊害ヲ醸スニ至レリト云ヘリ若シ此
事情ヲ確實ナリト認ムレハ世ノ債主ヲ保護セシカ為メ金銀執
ク原本位ヲ設クルノ圖是タル処アリ
一千八百五十六年以迄五ヶ年間ハ大ニ金銀鑛ヲ繁シ字内一般
ニ諸品ノ騰貴ヲ起セリト望ム此景況ヨリレテ民間ニ弊害ヲ醸
セシ処ナク却テ債主ヲ始メ諸般ノ職業ハ為ニ振作シテ大ニ鴻
益ヲ興スノ地域ニ進ミタリ蓋シ斯ル景況ヲ顯ハセシハ全ク事

突ノ以テ如何トモ為ス可カラサル者アリ今ヤ之ヲ叙述センニ
字内一体ニ往時ノ物價ヲ変レ諸般ノ職業自ラ其趣ヲ改メタリ
然ルニ今ヤ其物價ヲ回復センカ為メ金銀孰レク廢シ単本位ヲ
設クレハ此制度ニ由テ免ク其救済ヲ遂リルヨリモ却テ弊害ノ
起レル處多カルヘシ斯ル制度ヲ以テ一千八百四十年頃ノ物價
ニ回復セント欲スルモ到底實地ニ適マサルヲ知ル如何ニト云
フニ方今ノ景況ト米利堅カ未タ銀鑛ヲ發セサル頃トハ大ニ其
時勢ヲ異ニスレハ今ヤ其物價ヲ復スルノ切要ナラサル處アレ
ハナリ蓋シ目今ノ切論ヲ要スル問題ハ則チ左ノ如シ
一千八百五十六年ヨリ一千八百六十五年迄漸ク物價ヲ騰セ
レ程度ハ此年間ニ於テ金銀鑛ヨリ産出セシ割合ニ越エル乎
又將來金銀鑛ノ景況ハ今マヨリ一層盛大ニ趣ケル乎又姑ク
世人ノ臆測ニ據リ今後金銀鑛ノ極度ト認メレ處ニ於テ其鑛

一五

産世ノ需求ニ應セサルハ自ラ諸品ノ下落ヲ促スアルニ恐
ク其價ノ騰貴スル處ナキヤ否ヤ判然認知スルニ足ラサル乎
克ク此諸項ヲ推究スルニ在ルナリ
物價ノ騰リシ程度ハ明ニ詳論スル能ハスト茲ニ姑ク其信憑ヲ
事實上ニ執リテ畧ク決定セレ處ヲ述ヘントス

第一項

一千八百零九年南亞米利加カ革命論ノ争乱ヲ起セリヨリ一千
八百四十九年カリホルニヤ州ニ始テ鑛坑ヲ發セシ頃迄ハ漸ク
金銀價ノ騰貴スルニ從ヒ諸般ノ物價ハ愈々下落ニ趣キタリ而
テ又ドウボンス氏ノ説ニ拠ルニ現今金銀價ノ諸物價ニ當レル
比例ハ右ノ年間ヨリ以前ニ比スレハ其價一倍四分五厘ヲ増シ
タリ

第二項

一千八百四十九年以後漸ク金銀貨ノ價值ヲ失フヤ諸般ノ物價ハ直ニ騰貴ノ状ヲ起シ次第ニ進テ一千八百六十五年頃ニ及テ實モ高價ヲ極メタリ然レモ是ニ至テ又タ其方向ヲ轉シタリ借テ又同氏ノ説ニ批レハ其時ニ於テ金銀貨ノ諸物價ニ當レル比例ハ其ノ年頃ヨリ以前ニ比スレハ其ノ價ハ一割五分ヲ損シタリ

第三項

爾後金銀貨ノ價值ハ總テ下落ヲ起セルト雖モ諸物價ニ當レル其割合ハ一千八百四十九年頃ノ價值ヲ保有スルカ故一千八百零九年頃ヨリ此景況ヲ視レハ金銀貨ノ相場ハ現今尚ホ高價ナルヲ知ルニ足レリ
前文ニ決定セシ論言ハ唯タ金銀貨ト諸般ノ物價トヲ比較シテル關係ヲ述ヘレノミ故ニ金銀貨ト僱役人ノ賃料ト未タ此割合

ヲ以テ其關係ヲ論定ス可カラサル所アリ
經濟家ノ諸説ニ貨幣ヲ増發スルニ諸般ノ物價為メニ影響ヲ蒙ルヨリモ速ニ僱役人ノ賃銀ヲ増シ一体ニ僱役料ノ騰貴ヲ起スルアリト云ヘリ熟シ其理由ヲ釋ヌルニ貨幣ヲ増發スレハ直チニ諸般ノ起業ヲ促シ自ラ其資額ハ諸職人ノ報勞ニ供スル程ノ餘裕ヲ存スルカ故容易ニ其事業ヲ一層進振セシハルニ足ルモノナリ此理合ハ唯タ名目ニ屬シテ決シテ實地ニ行ハレスト云トモ畢竟僱主タル者ハ勞夫ノ給料ヲ以テ資本ト認ムルカ故勞夫ノ働ニ從テ給料ヲ増スハ必然ノ勢ヒナリ
勞夫ヲ勵マシ工業ヲ進メンニハ賃料ヲ増シ任用ヲ重ニスル徳義上ニ發生スル者ト信依スルカ故若シ克ク此主旨ニ戻ラスンハ勞夫ハ安シテ其職業ヲ改良スルノ希望ヲ起スヘレ常ニ斯ル希望ヲ懷テ一層技倆ヲ研キ心術ヲ尽スヤハ往々新發明ノ偉功

ヲ奏スルノ勢ナカラサルモノナリ視ヨ古采ヨリ世間ニ貨幣ヲ
増セシ頃ハ必ス大ニ器械ヲ發明シテ人エヲ節減シタル例アリ
而テ斯ル器械ヲ發明スルハ現ニ工費ヲ減シ其物價ヲ下落
スルト虫氏之ヲ需用スル者従前ヨリ一層増進スル処アレハ決
シテ勞夫ノ賃料ヲ減シ或ヒハ職業ノ道ヲ沮塞スルノ恐レナ
シ
物價ノ昇降及ヒ其程度ヲ論スルニ至テハ種々異説ヲ述フル者
アレハ判然明決スル能ハスト虫氏カリホルニヤ及ヒアラスト
ラリテ洲ニ於テ大ニ鑛坑ヲ發メレ爾後字内ノ貿易生財及ヒ人
口ハ頗ル蕃殖ニ趣キシヲ知ル而テ其進度ノ速ナルハ一千八百
六十五年以來盛ニ金銀ヲ産メレ割合ニ優レリト云ヘリ然リ而
テ斯ル發鑛アルカ爲メ一旦諸呂ハ特ニ騰貴セシ処アリト虫氏
此時ニ於テ又其價值ヲ損セシカル後大ニ下落ヲ起スニ至レリ

一七

諸テ此下落ヲ起セレハ近年海内ノ諸國ク銀價ヲ廢シ金本位ノ
制度ヲ設ケシニ依レリト云フヘシ
前後僅ク二十ヶ年内ニ於テ魯西亞一千八百五十七年米利堅一
千八百六十二年以太利一千八百六十六年ノ諸國ハ皆テ正金ヲ
以テ紙幣ヲ支消法ヲ舉行スルヲ怠タレリ尚又外國ノ正金ヲ取
引スル地方ニ向テ金銀貨ヲ輸出スル能ハサルノミナラス充采
若レ此諸國ニ於テ專ラ正金銀ノミノ取扱ヲ定メアルニセヨ一
且金融塞リ卒ニ貨幣ヲ要スル処アルモ斯ル切迫ニ會スレハ全
ク世ノ需求ヲ絶ツニ至ル可レト思ハルハナリ諸テ斯ル景況ヲ
顯ハセレ所以ヲ考フルニ現今世ノ需用ハ決レテ充足シタルニ
アラス又世ノ需用ヲ減却シタルニアラス其実ハ正金ノ欠乏ナ
ルニ原ケリト云フ故ニ今日正金ヲ以テ物品ヲ買フハ其價ニ
換フル割合一千八百四十九年頃ニリ一層低價ナルヲ確知スル

ニ足ルモノアリ此時ニ際シ右ノ二大國カ何レモ或ハ何レカ正
 金ヲ以テ紙幣ノ支消法ヲ奉行スルアラハ大ニ正金ノ價額ヲ騰
 セ一体ニ諸般ノ物價ヲ減スルハ當時必然ノ勢ヒナリト云フヘ
 シ
 續テ又アルメンテンコンアエドレトコン南亞米利加州ニ在ル地名一千
 八百五十七年ペリウ及ヒアウストラリア州南亞米利加州ニ在ル地名一千八百六十八年
 佛蘭西一千八百七十年ノ諸國ハ皆正金ヲ以テ紙幣ノ支消法
 ヲ奉行スルヲ急タレリト云フ魯西亞、以太利、米利堅ノ諸國カ紙
 幣ノ支消法ニ沮塞ヲ起セレヨリモ其切迫ニ會セレ有様ハ極メ
 テ輕鮮ナル処アリ何トナレハ當時内國ハ正金ノ需用ヲ減セシ
 モ外國ニ輸出スル金銀額ハ頗ル許多ナレハナリ
 顧フニ方今宇内ノ人口、生財及ヒ貿易ハ各々振作シテ大ニ盛大
 ノ域ニ進メリ斯ル隆運ニ際シ世間ノ有金高ハ之ト共ニ増殖ス

一八

ル処ナケレハ將來果シテ缺乏ヲ生スルニ至ラン然ルニ今ヤ單
 本位ヲ設ケ金銀孰レカ其融通ヲ減スルヲアラハ直ニ切迫ノ景
 状ヲ現ハス一層甚シカルヘレ夫レ斯ノ如ク宇内ノ文明日進
 スルヲ視レハ今日銀貨ヲ廢シ金本位ヲ設クルニ於テハ取モ等
 削ニ分ス可ラナル論題ト云フヘレ顧フニ既往ノ成跡ニ於ケル
 如ク今後愈々文明ノ地歩ヲ進ムル処アラハ一層金銀貨ノ需用
 ヲ増加セサルヲ得サルナリ而テ余輩近年ノ景况ヲ伺フニ人智
 大ニ削ケ一體ニ文明ノ化域ニ進入スルノ疾速ナルヲ覺フ畧ホ
 今マ其委由ヲ記シテ實況ヲ判然タラシメント欲スルナリ
 次奈ニ於テ一千八百七十四年以往全五十年分ヲ十年ツ、區
 分シ以テ英吉利、佛蘭西、米利堅ノ三大國輸出入ノ金銀價額合表
 ヲ揭示メン

英佛米輸出入ノ比較合表

大蔵省

起算ノ年	十ヶ年ノ程度	輸出ノ價額
一八三四	八,三三三,六五六,一六八
一八四四	一一,五〇八,八七九,九八二
一八五四	一七,四九五,一四〇,九一九
一八六四	三二,七五一,七七三,五一九
一八七四	五一,九一五,七二七,六三九

一、千八百五十四年以迄十年間ノ景況ヲ視ルニ此年限ノ表路ニ
 方、新ニ金鑛ヲ發セシヨリ世間ノ有金高ヲ増加セシト雖其
 比例ハ凡ソ五割有餘ニ當レルノミ
 然リ而テ今マ一千八百七十四年以迄十年間ト一千八百五十四
 年以迄十年間トヲ比較スレハ大ニ一体ノ高況ヲ變セシラ知ル
 蓋シ此二十ヶ年内ニ貿易ノ道著シク改進シテ殆ント三倍ニ及

一、一九

起算ノ年	十ヶ年ノ程度	輸出入ノ價額
一八三四	四,六四六,二二五,〇〇〇 弗
一八四四	六,三四三,九〇〇,〇〇〇 弗
一八五四	九,八九三,二一五,〇〇〇 弗

ヒタリ
 斯ル比較ニ拠レハ當時感ニ金鑛ヲ發セシモ新ニ民業ノ起レル
 ヲリ悉リ其資本ニ充テラレ未ッ諸品ノ騰貴ヲ促スニ足ラザリ
 シナリ世人ノ謂謂新ニ金鑛ヲ發セシル未貿易ノ道頓カニ感大
 ニ是リトハ則チ是レナリ斯ル辨論ヲ反覆スル者ハ勉メテ此
 事實ヲ失ハシメサルヲ切要ト考フルカ故ナリ左ニ英、佛、米輸出
 入ノ金銀價額表ヲ掲クレハ明ニ十年度ニ從テ金銀額ノ増進ヲ
 詳カニスヘシ

英國輸出入ノ比較表

歳
 自

佛國輸出入ノ比較表		
起算ノ年 期	十ヶ年ノ程 度	輸出入ノ價額
一八六四	一八,〇一九,一六五,〇〇〇 弗
一八七四	二八,五〇〇,五五五,〇〇〇 弗
一八三四	一,九一三,〇〇〇,〇〇〇 弗
一八四四	二,七四一,四〇〇,〇〇〇 弗
一八五四	四,〇八八,〇〇〇,〇〇〇 弗
一八六四	八,三二七,二〇〇,〇〇〇 弗
一八七四	一二,七二八,四〇〇,〇〇〇 弗
合衆國輸出入ノ比較表		
起算ノ年 期	十ヶ年ノ程 度	輸出入ノ價額
一八三四	一,七七四,四三一,一六八
一八四四	二,四一六,五七九,九八二

イニ〇

一八五四	三,五四三,九二五,九一九
一八六四	六,四〇五,四〇八,五一九
一八七四	一〇,六八六,七七二,六三九

一千八百六十一年以太利每歳ノ貢税金ハ二億五千万弗ナリシ
 カ一千八百七十三年ニ至リ五億五千万弗ニ上レリ又一千八百
 六十九年同國輸出入ノ總額ヲ算スレハ其價三億三千万弗ナリ
 シカ一千八百七十二年ニ至リ四億五千四百万弗ニ上レリ
 既ニ斯ル実況ヲ見レハ最早類例ヲ要マサルモ明クニカリホル
 ニヤ州及ヒアラウストラリア州ノ金坑ヨリ盛ニ鑛産ヲ發セシル
 來大ニ字内ノ民業ヲ起シ貿易ノ道ハ一般ニ進捗セシラ知ラレ
 たり

一千八百六十五年第三月十一日英國ノ經濟學士カ發言セシモ

ノアリ故ニ今マ之ヲ左ニ抄出セシトス
外邦ノ通商ハ此十二年采大ニ興起シテ殆ント其以前ニ一
倍スルノ勢ヲ現出スルニ至レリ近年内國ノ工業一般ニ未嘗
有ノ進歩ヲ促セシヨ見レハ全ク外交ノ感ナルニ依テ自然斯
ル影響ヲ起シタル処アリト云フヘシ蓋シ此景況ハ我國ニノ
ミ行ハルニニアラス佛蘭西日耳曼ノ諸國ハ勿論以テ利又
此影響ヲ蒙ムレヨリ一般ニ工業ヲ進メシヲ知ル時ニ西班
牙ノ如キハ多年工業ヲ怠タレレカ此時ニ於テ再々其衰運ヲ
挽回シタリ而シテ此景況ハ延テ魯西亞ノ邊境ニ波及シタリ
夫レ此ノ如ク全歐ノ諸國皆ナ此變動ニ感觸レテ工業ヲ起サ
ル処ナレ備テ此原因ハ那邊ニ起レリヤト云フニ十五年以
來感ニ貨幣ヲ製シ金融ノ道ヲ疏通シテ大ニ起業ニ供スル資
額ヲ増セシカ故ナリ然リ而シテ當時宇内ノ貿易場愈々感大

イニ一

ニ赴クト強ク願ル其進路ヲ妨害スル者アリ其妨害スルモノ
トハ何リヤ近年カリホルニヤ州及ヒアラウストラリア州ニ於
テ大ニ鑛坑ヲ發セシノミニ拘ハラズ今後金坑ヨリ新ニ鑛産
ヲ増シ漸ク其相場ヲ損スルノ恐レアレハナリ
亦ノ汽車道ノ通商ニ有用ナルヤ諸國素ヨリ此要法ヲ欠ク可
カラスト至ドモ現今感ニ成業スル処ノ鐵道線凡ソ八分ニ七ハ
皆ナカリホルニヤ州ニ金鑛ヲ發セシ以後ニ於テ建設セシモノ
ナリ
プーリス氏カ著セシ鐵道記畧ニ拠レハ一千八百七十六年ヨリ
同ク七十七年迄諸國ニ布置セシ処ノ鐵道線ハ長ク十八万二千
六百九十里ニ及ヒタリト云フ但シ此里程ノ内僅ク二万四千百
零二里ハ一千八百五十年以前既ニ落成シタル者ナリ
一千八百四十九年以後ハ審ニ字必生財ノ度ヲ費用スル克ハス

ト虫唯唯夕我國ノミノ戸籍年報存ヲ檢按スレハ當國ハ生財ノ
 度大ニ進歩シ明ニ此二十ヶ年内ニ於テ四倍有餘ニ上リシヲ知
 ル之ヲ今マ價値ニ直シテ十年度ノ比較表ヲ製シ其割合ヲ示ス
 左ノ如シ

台衆國ノ財産比較表

起算ノ年期	十ヶ年ノ程度	財産價額高
一八五〇	一八六〇	一八七〇
七、一三五、〇〇〇、〇〇〇 弗	一六、一五九、〇〇〇、〇〇〇 弗	三〇、〇六八、〇〇〇、〇〇〇 弗

アウスタラリヤ州ノ英國殖民地ハ財産上ノ進歩最モ宏大ナリ
 トス而シテ歐洲ノ如キハ生財ノ道素ヨリ感ナリト虫唯唯而ニ對
 スレハ其割合極ムテ寡ナル處アリ思フニ財産上ノ増殖ハ字
 内一般ニ金銀融通高ノ増進スルニ從テ愈々其速カラ加フルモ

イニニ

ノナリ大不列顛及ニ愛蘭ニ於テ凡ソ家産税ノ部類ニ加ハル
 財産ノ價値高ハ次条ニ述フル如シ

一千八百四十八年英國ノ財産高ハ二億五千六百万磅ナリレカ
 一千八百七十二年ニ至リ四億三千五百万磅ニ上レリ但シ前ノ
 價額ニ此高ヨリ差引レ残リ一億七千九百万磅ハ則チ此二十ヶ
 年内ニ於テ増加セシ處ナリ

中古以来ヨリ大ニ字内ノ形勢ヲ變シ現今ニ及テハ凡ソ地球上
 ニ於テ未タ人跡ヲ止メサル邊境ニ至ル迄陸續文明ノ化育ヲ蒙
 ハルニ及ニテ歐人ノ各方ニ散居スル者忽チ蕃衍スルニ至レリ故
 ニ苟モ殖民ノ地ヲ占ムルハ直ニ方法ヲ設ケ工業ヲ勵ミ貿易
 ヲ起シ生財ヲ勉ム懶惰ナル士民ノ後ヲ督促シテ以テ通商ノ道
 ヲ誘導シタリ抑モ今日歐洲ノ富強ヲ興セシ者ハ當ニ内國ノ生
 財カラ頼ムニアラス外國産ハ以テ其一半ヲ助ゲタリト云フベ

大蔵省

レ夫レ此ノ如ク歐洲ノ人民ハ宇内ノ諸國及ヒ諸島ニ至ルマテ
遍ク植民セザル処ナキ故自ラ才藝、國語ヲ各邦ニ傳播ス
ル処トアレリ熟々現況ヲ視レハ歐洲ハ殖民ノ餘澤ニ由テ其榮
華ヲ愈々四海ニ光被スル処アルヘシ

殖民ノ地方稍々文明ニ進ミ人戸及ヒ財力少ク蕃殖ニ赴リハ
文明諸國ノ民競テ其境域ニ進入スル勢ヲナセリ斯ク諸民爭テ
新境ヲ求ムレハ其區域忽テ宏大ニ至レルノミナラス從テ又見
捨ツル処アレハ詳ニ其趣ヲ記臆シ易カラサル程ナリ

近頃ハウストラリア州ノ歳入ハ二億五千万弗ニ上レルノミナ
ラス毎年又海外エノ輸出高ハ此價額ニ二倍スルニ至レリ但シ
此歳入ハ英國ニテハ四十年前ノ歳入ニ優リ仏國ニテハ二十
五ヶ年前ノ歳入ニ優リ又米國ニテハ二十ヶ年前ノ歳入ニ優レ
ルモノナリ偕テ英國人ハ藩屬地ノカナダ、喜望峯及ヒ他ノ諸

イニニ

國ニ於テハ特ニ銳意シテ植民ノ業ヲ興起シタリ然リ而テアウ
ストラリア州ハ頗ル殷富ノ名アルモ敢テ茲ニ植民ノ業ヲ勉ム
ルノ有様ナレ是レ前ノ事情ニ反スル処アルヲ怪シムナリ然ル
ニ南亞米利加州ニ植民シタル歐羅巴人ノ本國政府ハ其國力素
ヨリ英國ト比肩スルニ足ラズト雖モ文明ノ度ハ大抵英國人ト
大ニ相違セシ処ナレズル人民ニシテ尚ホ克ク植民ノ馮困ヲ起
サントレシ此地方ニ到來スル者多シ現ニ一千八百七十五年内ニ
於テ渡航シ歐州人カニウヨルク府ニ住居セシヨリモホニユウ
スアレトスエ移住セシ者却テ許多ナリシナリ

万邦皆テ貨幣ヲ藉テ專ラ貿易ヲ行フハ金銀鑛ノ出產ハ以テ
十分ノ金融ヲ為スニ足ラサル可レ當時金銀ヲ措テ他ニ貨幣ト
認ムルノ家ニ違当ナルモノナレズル世運ニ際シ宇内ノ生財、貿
易及ヒ人口近來ノ盛大ニ於テル如ク愈々其進度ヲ止メサル所

ハ金銀孰レモ増進スル処ナカル可ラス然ルヲ單本位ヲ設ケ金銀孰レカ其價値ヲ奪ラ子或ハ又他ノ原因ニ関シテ貨幣世ノ融通ニ足ラサルハ左ノ如キ景状ヲ醸出スル処アルヘシ
宇内ノ貿易工業及ヒ人口ハ次第ニ衰ヘテ沮塞ノ状ヲ起ス可シ而テ又貨幣日々ニ乏シク歲月ヲ歴ルニ尚ホ此情体ヲ挽回セザレバ到底人民ノ進歩ヲ妨クルノミナラス交際及ヒ政事上ノ体面ヲ破壊スルニ至ル可シ

金銀貨ノ缺乏ハ紙幣ヲ以テ其融通ヲ助クルヲ得ヘシ予蓋シ此方法ヲ設ケレ所以ヲ考フルニ有限ノ金銀鑛ハ素ヨリ人口及ヒ貿易ノ進歩ト并馳スルニ足ラス如之一旦金銀鑛ノ缺乏ニ會スレハ到底其金融ヲ助ケルノ道ナキカ故ナリ

古代金銀ノ有金高竄モ寡少ナル頃ハ諸品持ニ安價ナリト安氏生財上ノ進歩ハ更ニ振動セシ処ナレ斯ル有様ニ於テハ十分ノ

イニ四

金融ノ保攝スルヲ克ハサル可シ蓋シ金銀高ノ僅サト諸品ノ安價トハ常ニ其殷富ヲ中心ニ集マルノ勢アリ故ニ小教ノ富者愈々殷富ヲ増シ多教ノ貧者益々貧困ニ陥ルノ弊害アルモノナリ
諸テ今日斯ル弊害ハ宇内一般ニ免レサル処ナリ

金銀孰レカ鑛産ヲ増シ大ニ其釣合ヲ失フモ万邦貿易場ノ大勢ヲ見レハ決レテ金銀ニ関スル價位ヲ変スルノ恐ナレ如何ト云フニ方今諸大國ハ法律ヲ以テ金銀均レク平等ノ權クヲ有シテ敢テ其鑛造高ヲ妨ケタルノ工夫ヲ設ケタレハナリ
金銀ニ関スル價位忽チ變動ヲ生スル者ハ他ナレ唯ク其鑛産ヲ得ルノ費用ト額額ニ関シテ金銀孰レモ其價ヲ変スル処アルナリ蓋シ鑛鑛ノ変タルヤ突然變化ヲ生シテ許多ノ費用ト出額ニ関スル程ノ得失ヲ現ハス者ナレハ之ク為メ法律上ニ認メシ金

大蔵省

銀價ヲ屢々改革セラル可カラス常ニ斯ル變化アレハ兩本位ノ
制度モ極テ不便ヲ免レサル処ナリ
法律上ニ認メシ金銀價ヲ屢々改革スルハ市場ノ金銀價ニ從
テ亦々其相場ヲ變セサルヲ得サルナリ但シ兩本位或ハ單本位
ノ制度ニ拘ハラズ此弊害ニ関シテ孰レモ批駁ヲ免レサルヲ知
ルナリ
米國ハ一千七百九十二年以後ニハ唯々一度金銀ノ價位ヲ改メ
シノミ當時一千八百三十四年我々貨幣ヲ鑄造セシヲ以テ竟ニ
必改革ヲ行ヒタリ
一千八百三十七年法律上ノ金銀價ヲ改メ新ニ其位ヲ定メシト
實ニ其度極メテ僅サナレハ殆ト改革ト云フニ足ラサルナリ而
テ又一千八百三十四年ニ於テ從前ノ金銀價ヲ改定セシ者ハ市
場ノ金銀價カ卒カニ相場ヲ變セシヨリ此改革ヲ行ヒタルニア

一、二、五

ラス亦米ハ米國ハ一千七百九十二年始テ金銀價ノ價位ヲ定メ
シ時既ニ市場ノ金銀價ト法律上ノ定價トハ全ク其實價ヲ異ト
シ処アリタリ願フニ當時一千七百九十二年若シ法律上ニ認メ
シ金銀價全ク實際ニ戻ラサレシメハ現今ニ至ル迄テ或ハ其定
價ヲ改ムルノ切要ヲラサル乎未ダ了知ス可ラサルナリ一千八
百零三年佛國ノ法律上ヨリ金一ニ銀十五ニ分ノ一ト金銀ニ関
スル價位ヲ定メタル時商法會議局ノ發論ニ於テ凡ソ尔後五十
ケ年ヲ歴レハ更ニ此定價ヲ改ムルノ切要ナル場合アルヘシト
云ヒタリ然ルニ尔米佛國ハ實際ニ於テ其定價ヲ改メサルノ
ナラス近頃ニ至ル迄毫モ其改革ヲ要スル程ノ妨害アル処ヲ視
サリシナリ
中古以來金銀ニ関スル價位ハ大ニ變動ヲ起セシク第十七世紀
ノ中頃ニ至リ又其變動ヲ止メタリ蓋シ亞米利加州ニ於テ大ニ

銀鑛ヲ發マシ頃亞細亞州ヨリ盛ニ銀ノ需求ヲ起シ殆ト對抗ノ
勢ヲ顯ハセシカ故銀ノ出產ハ全ク此需求ヲ相ヒ平均スルニ至
レル乎或ハ他ノ事故ニ関スル乎詳ニ其動靜ヲ判知スル能ハス
ト茲ニ唯タ其状況ヲ述レハ此項ヨリ二百有餘年ノ星霜ヲ歴テ
現今一千八百七十四年及七十五年日耳曼ク銀價ヲ廢シ金本位ヲ
設クル迄ノ中間ニ於テ金銀ニ関スル價位ハ僅々變動ヲ起セシ
ノミルモ往年英國ク金本位ニ改メシ時市場ノ金銀價ハ頗ル變
動ヲ起セシト茲ニ暫時ニ止マリ未タ其相場ヲ變シタリト云フ
ニ足ラサルナリ

此報告中エ一千七百六十年ヨリ現今ニ至ル迄英國倫敦府ノ
金銀相場表ヲ攪入スヘレ

一千八百七十六年倫敦府ノ地金賣買人ピクスレー氏及ピア
ール氏ハ金銀相場表ヲ製シ英國ノ銀取調執工差出セリ其書ニ

一千八百三十三年ヨリ一千八百七十五年迄ノ金銀價ノ割合ヲ
掲示セタリ

法律上ノ銀量一オンスニ付キ毎月ノ金相場ノ割合ヲ取リ一千
八百三十三年ヨリ一千八百七十五年迄金相場ノ程度ヲ定メタ
リ

倫敦府ノ金相場カ法律上ノ定銀一オンスニ付キ其價值五十九
ペンスナルキ市場ノ金銀價ハ金一ニ銀十五九八ノ相場ニ當レ
リ夫レ此ノ如ク英國ハ一千八百三十四年ヨリ一千八百三十七
年迄金銀ニ関スル價位ヲ定メタリ而テ爾後姑ク法律上ノ定價
ヲ改革マカリシカ一千八百七十四年ニ至リ銀價ヲ低メンカ為
メ金本位ノ制度ヲ設ケシキ竟ニ從前ノ金銀價ヲ廢シタリ諸テ
又倫敦府ノ金相場カ法律上ノ定銀一オンスニ付キ其價值六十
ペンスハ七ナルキ市場ノ金銀價ハ金一ニ銀十五二分ノ一ノ相

場ニ当ル可シ但シ倫敦府ノ相場ハ羅甸聯邦ヲ制定シタル金銀
 價ト毫モ其割合ヲ異ニセザルモノナリ
 右ノ年間ニハ按スルニ一千八百三十三年ヨリ金銀孰レモ金銀
 レテ盛ニ鑛産ヲ興セシヨリ金銀價ノ相場ハ屢々變動ヲ起シタ
 リ然リ而テ前後何レノ變動ヲ以テ窠モ激烈ナリト認メシ乎今
 マ之ヲ比較スレハ後年ノ變動ハ前年ヨリモ一層其勢力ノ輕鮮
 ナルヲ覺ユルナリ
 一千八百三十三年ヨリ一千八百七十五年迄ノ年代ニ於テ令ヲ
 距ル二十七ヶ年前カリホルニヤ州ニ鑛坑ヲ發見シタリ續テ又
 二十四ヶ年前アウストラリア州ニ鑛坑ヲ發見シタリ儲テ一千
 八百四十九年以後ハ毎年金銀鑛ヲ發掘シテ大ニ鑛産ヲ興セシ
 ヲリ一千八百七十三年ニ至ル迄愈々鑛産ヲ増進セシ処アレハ
 世間一般ニ金銀ノ融通高ヲ増シタリ

千ワルレール氏ハ左ノ如ク亞米利加州ヲ始テ發見セシ頃ヨリ
 一千八百四十八年迄ノ金銀採鑛高ヲ算用シタリ

米國發見後ヨリ一千八百四十八年迄	銀鑛ノ出產高	金鑛ノ出產高
亞米利加州	五、二六一、〇〇〇、〇〇〇弗	一、九九八、〇〇〇、〇〇〇弗
字内ノ諸國	四四四、〇〇〇、〇〇〇弗	六三六、〇〇〇、〇〇〇弗
合 計	五、七〇五、〇〇〇、〇〇〇弗	二、六二六、〇〇〇、〇〇〇弗

此統計表ニ拠レハ米國金鑛ノ出產高ハ字内鑛産(米國ノ鑛産)
(以下)ノ三割一分ニ當レリ尚ホ又次條ニ於テ亞米利加州ヲ發見
 セシ頃ヨリ現今ニ至ル迄ノ西半球ノ金銀採鑛高ヲ附記スヘシ
 ホンボルト氏ノ説ヲ引キ第十八百紀ノ初ニ於ケル金銀採鑛ノ
 趣ヲ述フ可

毎年鑛産ノ程度
 銀鑛ノ出產高
 金鑛ノ出產高

大藏省

米利堅	七、〇七一、八三一	二、三八二、三一五
宇内ノ諸國	六六一、一四五	二五、八二二
合計	七、七三二、九七六	二、六三四、一三七

此統計表ニ拠レハ米國金鑛ノ出産高ハ宇内鑛産ノ二割五分ニ当レリ

一千八百零九年ヨリ一千八百二十九年迄メキシコ州ノ人民ハ西班牙政府ニ叛キ革命論ヲ起レタリ斯ル騷擾ニ會レテ此二十ヶ年内ハ大ニ鑛業ヲ怠レルカ故諒地ノ金銀鑛ハ一休ニ例年ノ鑛産高ヲ減サスルニ至レリ今ヤ姑クメコグバ氏ノ説ニ拠レハ其項凡ソ一ヶ年平均金鑛ハ百五十九万八千磅ヲ産シ而テ銀鑛ハ又三百六十三万九千磅ヲ産シタリト云ヘリ此算用ニ拠レハ當時米國ノ金鑛ハ毎年ノ出産高宇内鑛産ノ三割ニ当レリ

一、二、八

一千八百四十六年魯西亜ニ於テ大ニ金鑛ヲ發掘セシカ為メ金鑛ノ出産高ハ宇内鑛産ノ五割ニ分ニ上レリ然ル氏斯ル割合ヲ以テ魯西亜ノ金坑ヨリ鑛産ヲ發メシハ一千八百四十八年以前暫時ノ景況ニ止マルトシ而テ又諸氏ノ算用ニ拠ルニ一千八百四十八年以テ三百五十年間金坑ヨリ鑛物ヲ發メレ程度ハ凡ソ金銀鑛産總高ノ二割五分乃至三割一分ニ當レリ

ベクトルヘイス氏ノ算用ハ勿論ソウク氏ニウマートク氏ヲ始メ諸家ノ算用ヲ参考シテ最モ其異同寡ナキ処ノ金鑛産出額ヲ五ヶ年度ニ分ケ之ヲ金銀全般ノ採鑛高ニ比スレハ如何ナル割合ニ當レルヤ揭示セントス

起算ノ年	五ヶ年間ノ程度	金鑛出産ノ割合
一八五六		七割九分
一八六一		七割五分

蔵省

一八六六

七割二分

一八七一

七割一分

一千八百七十五年以往四ヶ年間カムストックロッドノ銀鑛ヨリ大ニ鑛産ヲ興シタリ儲テ其割合ハ凡ソ字内ノ金銀出産高ノ四割ニ居レリ

一千八百七十一年以往二十ヶ年間銀坑ニ産セル割合ハ漸ク金銀鑛産高ノ二割七分ニ當レリ之ニ反シテ一千八百四十八年以往三百五十ヶ年間ハ凡ソ其割合金銀鑛産高ノ六割九分ヨリ七割五分ニ上レタリ而テ一千八百七十六年ニ於テ出銀ノ割合漸ク又金銀鑛産高ノ四割三分ニ居レルノミ

前文ノ景況ヲ視ルニ第十九百紀ノ中頃ニ於テ大ニ金鑛ヲ發見セレヨリ金銀鑛産上ノ模様ヲ一變セリト云フヘレ然リ而レニ

二九

尔後市場ノ金銀價ハ當メニ其相場ヲ變スルノ却テ僅シナルヲ知レルナリ

一千八百七十一年法律上ノ銀量一オンスニ付キ倫敦府ノ金相場ハ六十ペンスニ分ノ一ニ當レリ儲テ一千八百七十一年以往五ヶ年間ノ金相場ハ多ク變動ヲ起セシト雖モ尙六十ペンスト六分ノ九ニ止マレリ但レ此五ヶ年間金相場ノ割合ハ平均六十ペンスハ十分ノ四十一ニ當レリ而テ一千八百四十八年以往五ヶ年間金相場ノ割合ハ平均五十九ペンスハ十分ノ三十一ニ當レリカカホルニヤ州及ヒアラスタラリヤ州ニ於テ金鑛ヲ發見セレヨリ大ニ鑛産ヲ増シ市場ノ金相場ハ當メニ變動ヲ蒙リタリト雖モ目今吾人ノ最モ高價ト認ムル処ニ於テ漸ク其相場六十ペンスハ十分ノ四十一ト六十ペンスハ十分ノ三十一トノ差半ヲ生セシノミ其後一千八百五十九年倫敦府ノ金相場亦ニ變

後
省

動ヲ起レテ六十二ペンス十六分の一に騰上シタリ結リ先ツ此
時ノ金相場ハ頗シ高價ト云フ処アルモ發鑛ニ関シテ斯ル騰貴
ヲ從テシニアラズ蓋シ其頃東印度ノ英領ニ叛民起リ鉄道及ヒ
他ノ工業ヲ毀壞レタリ此ヲ以テ英國ハ不慮ニ金ノ需用ヲ起シ
東印度ノ工費ニ充テント欲セレク故ナリ又熟々當時ノ事情ヲ
考フルニ倫敦府ノ金銀價カ大ニ相場ヲ変セシ頃(日耳曼カ貨幣
ノ本位ヲ改革スレ以前ヲ云フ)ハ常ニ東印度ヨリ突然銀ノ需用
ヲ起セシ如キ景況アリト云フヘシ夫レ此ノ如クナレハ英國ハ
豫メ東洋ヨリ銀ノ需求アルヲ了知スル克ハケルカ故ナリ是ニ
由テ之ヲ觀レハ市場ノ金銀價カ卒カニ其相場ヲ變セシ者ハ金
銀ノ鑛産高ニ関レテ忽チ斯ル變動ヲ促セシ処ナキカ如シ是レ
稍々吾人ノ疑惑ニ解ルルモノナリ
儲テ銀相場ハ屢々變動ヲ起セシモ唯ク倫敦府ノ景況ト云フニ

イニ。

過キアルヘレ何トナレハ元來英國ハ金本位ヲ設ケニ因リ金
價台ヲ富饒ナレハ常ニ銀ヲ求ムル所ハ打歩ヲ以テスルカ故ニ
其相場自然變動ヲ生シ易キ処ナリ然レモ佛國ノ如ク若シ法律
上ノ金銀價市場ノ相場ト相ヒ背戾セサル所ハ假令非常ニ銀ノ
需用ヲ起スル容易ニ其額ヲ募集スルヲ得ルノミナラス大ニ打
歩ヲ損シ或ハ一旦困難ニ會スルノ恐ナカル可シ一千八百五十
九年大ニ金銀價ノ相場ヲ變セシ時兩本位ヲ設クル邦國ニ於テ
ハ更ニ利益ヲ妨ケラレシ処ナレ仙國ノ貴族ロステアイルボ氏
カ曰ク當時英國ハ絶ヘス打歩ヲ以テ非常ニ銀ノ需用ヲ起セシ
カ故仙國ノ如キハ為メニ莫大ノ利潤ヲ得タリト
エル子一ストマイド氏ノ說六百三十一葉ニ倫敦府ハ東洋
ノ通商ニ関シニ市場ノ銀相場時々騰貴ヲ促セシト雖モ政州ノ
諸國ハ銀相場極メテ變動ヲ蒙ハルト察ナレ儲テ又一千七百十

續
公

七年アイセックリニウトン氏ハ前文ニ述フル事情ニ同シテ倫敦
府ノ銀相場大ニ變動ヲ起レタリト云ヘリ當時同氏ハ造幣局ノ
首長タルヲ以テ其報告各ニ銀相場ノ繁榮ヲ述テ曰リ當今倫敦
府ノ銀相場ハ九ツ六十四ペンスニ分ノ一ニ當レリト又左ノ一
條ヲ述ヘタリ

我々高船ノ東印度ニ進航セシ時ハ輸出ノ為メ卒ニ銀相場ノ
景況ヲ變シテニ銀ノ需用ヲ起セハ六十六ペンス或ハ六十八
ペンス以上ノ騰上ニ赴リテアリ然レ氏余輩思フニ斯ル非常
ノ銀相場ハ殆ント例外ニ屬スルモノナリ
一千八百五十九年頃英國カ卒ニ銀ノ需用ヲ起セシ實跡ヲ知ラ
レト欲セハ當時英國ヨリ東印度ニ運搬シタル餉銀高ノ宏大ナ
ルヲ見ルヘレ則チ一千八百五十八年ノ輸出銀ハ四百七十五万
三千九百三十三磅ナリ續テ又一千八百五十九年ノ輸出銀ハ前

イ三二

年餉銀高ノ三倍有餘ニ及ヘリ

金銀ノ發見以來ハ大ニ世間ノ有金高ヲ増シ市場ノ金銀價高
具釣合ヲ失フノ恐アレハ單本位ノ制度ヲ以テ其價値ヲ變セ
シメサルノ方便ヲ設ケタリ然レ氏銀鑛ハ常ニ出產ヲ増スノニ
ニテ數年以來未タ其鑛産ハ後前ヨリモ衰狀ヲ顯ハセシ處ナレ
儲テ一千八百四十八年以前ハ久シキ間銀鑛最モ盛大ニシテ其
鑛産金鑛ノ出產ニ優リタリ而シテ現今ニ及テ銀鑛稍ニ衰へ最早
金鑛ト對峙スルニ足ラサルノ勢トナレリ此有様ニテ進ハルハ
又ス多年ノ後ニハ銀鑛全ク金鑛ニ劣レルヲ推測サルハナリ然
ルニ又近年稍ニ銀鑛ヲ起シ往時ノ欠乏ヲ回復スルノ趣ヲ現ハ
セシ處アリト云云フヘシ蓋シ目今ノ銀鑛ハカムストフクロソ
トヲ以テ最モ壯大ナリトス凡ソ金銀孰レカ非常ニ鑛産ヲ完ス
ルアラハ現ニ金銀價ノ相場ヲ大ニ轉變スルヲ常トシ然レトス

大

義

目

カムストットロツドノ鑛坑ノ如キハ長ノ鑛産アル又今ノ鑛
産アルニ依リテ新ル轉變ヲ醸成スルノ恐ナカルヘシ
往年カリホルニヤ州及ヒアウスメアリヤ州ニ大ニ金鑛ヲ発見
セシノミナラス抑モ亜米利加ヲ発見以來盛ニ銀鑛ヲモ発掘シ
来レルヲ見レハ金銀鑛ノ盛衰ニ関レテ金銀孰レモ其相場ヲ變
スルハ必然ノ理ナリ然ルニ金銀ノ價ハ自然ニ一定スル処アリ
テ歴代大ニ其相場ヲ變セシ歟ナレ是レニ由テ之ヲ觀レハ畢竟
法律上ヨリ貨幣ノ價位ヲ制シ金銀ノ價位ヲ定マルニ足テサル
モノアリ又金銀相場ノ變ヲ以テ諸般ノ物價ニ比スレハ特ニ金
銀ハ孰レモ其相場ヲ變セサルノ鮮サナルヲ覺知スルニ足
レリ

相
イ
三
二

セレト安レ其市場ハ金一ニ銀十四乃至十六ニ當レルノミ加之
金取ノ採鑛費モ又其割合ニ從テ金ノ費用一ニ銀ノ費用十四乃
至十六ニ當レルヲ知ル蓋シ此費用ハ諸鑛坑ノ景況ヲ参酌シテ
以テ考定シタル処ナリ

前文ノ論理法ニ於テ説明セシ如ク金銀ハ孰レモ制度ニ関ラ
レテ自ラ其價位ヲ定マレル者ハ數百年ノ間金銀ノ採鑛費孰レ
モ變化ヲ生セサルカ故乎或ハ金銀ノ融通高孰レモ格合ヲ失ハ
サルカ故乎若クハ他ノ更由ニ基キテ故乎審ニ具理ヲ認マル克
ハスト至ニ其價値ハ明ニ變動ヲキヲ知ラルハナリ斯ル實況ア
ルヲ顧ミテ現今法律上ヨリ金銀ニ関スル價値ヲ定メ他ノ更故
ニ関シテ卒ニ其相場ヲ變セシメサルノ方便ヲ設ケルニ至レリ
諸テ又金銀ハ幾世ヲ經ルモ其質依然トシテ壞廢スル所ナレ然
レハ金融ハ次第ニ増シ世間ノ有金額ニ諸積シタリニ於テ法

律上ヨリ金銀通用工ノ権カヲ制シ敢テ其相場ヲ変セ
ルノ方便ヲ設ケルニ至レリ斯ル有様ナレバ假令一年或ハ一代
ニ在テ金銀頗ル其鑛産ヲ興シ又ハ其消用ヲ増スアルモ決シテ
從來ノ有金高ヲ踰ユル程ノ大變化ヲ起サレ可シ夫レ此クノ
如リ法律上ヨリ價位ヲ定メ金銀融通上ノ所用ヲ抑制スルモ金
銀ノ所有高ハ尚ホ餘裕ヲ存スルニ至レリ今ヤ法律ヲ設ケ金銀
ノ権ガヲ統フニハ蓋シ此餘裕ヲ存スル愈々巨額ナルニ後
ニ法律ノ効用益々切要ナルヲ覺知スル処アルヘシ姑ク是ニ由
テ之ヲ考フレハ法律上ノ効用ハ殆ト限リナキカ如レト雖モ
一ハ金ノ一ポンドト銀ノ一ポンドト其價ヲ均シクスルノ有様
ニ至レルハ最早此極度ト認マル処ナリ而シテ金銀ノ相場未
曾有ノ景況ニ會セズンハ決シテ斯ル程度ニ至ル可ラフ若シ
レアルモ金ノ所用ハ未タ充分ニ項ナル処アレハ最早貨幣ヲ製

スルニ及ハサルナリ
前文ニ叙述セシ如ク金銀ノ所有高孰レカ餘裕ヲ生シ法律上ヨ
リ價値ヲ奪ハレシ者再々民間ニ欠乏ナルハ金銀價ノ割合ヲ
持スル法律ハ最早其効用ヲ伸フル処ナレ願フニ又金銀ハ造幣
ヨリモ細工ノ為ニ需求ナル、処多シ然ラハ例年出鑛ノ金銀カ
工作料ニ充テラル、割合造幣局ノ所用ニ優ル可シ
諸テ金銀ニ関スル價位ヲ定ムルニ在テハ諸國各々其制ヲ異ニ
スルハ頗ル疑惑ヲ容ル、処アリト雖モ合衆國ノ如キハ特ニ永
遠ヲ慮リ法律上ヨリ正確ニ其價位ヲ定メシニ依リ三百年以來
屢ニ感衰ヲ起セシ金銀ノ變ヲ整正スルニ足ルモノアリト信依
ナルハナリ
古代ヨリ金銀ヲ貨幣ニ用ヒレハ世ノ口碑ニ傳フル處ナリ蓋シ
金銀ノ質ハ孰レモ堅固ニシテ分割提擧等ニ尙便ナラシ

時衆人ハ金銀ノ家ニ融通ニ適スルヲ覺リ時ニ之ヲ貨幣
ルノ石物タルヲ知リタルヲ願フニ金銀ハ本ト採鑛ノ費用ニ
関レテ始メテ其價値ヲ生セシカ其頃五ノ需用ハ唯タ之ヲ物材
ト認メレノミ而シテ需求人ノ如キハ其權カ素ヨリ時價ヲ定ムル
ノ勢カアリト望モ當時苟モ其價位ヲ定メシ処ヲキカ故屢々其
價値ヲ変セシラ了知スルニ足レリ後世漸ク交際ノ道興リ金銀
ノ有金高大ニ増進セシニ依リ貨幣ヲ製レ始テ其價値ヲ定ムル
ニ至レリ是ニ於テ金銀貨ノ需用ハ全ク時價ヲ制スルノ威カヲ
尙ヘタリ蓋シテ需用ト供給ノ勢ハ交換上ニ於テ價値ヲ生スルノ
原因アリトス儲テ古代金銀ヲ物材ト認メテ需求セシ頃ノ需用
ニ分限アルモ其價値ハ更ニ一定セシ処ナレ一般ニ若干ノ價格
ヲ有セシメタリ是ニ於テ元來其需用ニ有限アルモノヲ以テ五
ク其需用ニ限リナキノ性質ニ變ヒセシメ金銀孰レカ其價ヲ下

落スレハ為メニ其鈞合ヲ改ムルノ方便ヲ設クルニ及ヒタリ
世ノ識者ハ往々地金銀ヲ物材トシテ需求スルヨリモ一般ニ之
ヲ貨幣ト定ムルノ最モ實際ニ便ナル処アリト云ヘリ若シ此説
ノ如ナラシメハ必ス民業ヲ妨害スル処アリ其故如何トナレハ
元來金銀貨自然ノ價ニ根底マシハ忽テ字内ノ隆運ヲ變スル
ニ至ルヘシ蓋シ民業ノ感衰ハ世間ノ有金高ニ關係アルカ故ナ
リ
金銀ヲ單ニ物材ト認メシメハ世ノ需用ハ更ニ一定スル処ナリ
又常ニ貨幣ノ融通高ヲ減却スルノ恐アリ熟々史記ヲ按スルニ
歴代貨幣ハ増殖スルヨリモ却テ欠乏ヲ告クル者ノ如シ儲テ斯
ル缺乏ヲ起セシハ本ト金銀ヲ造幣ニ用ユルヨリモ他用ニ供ス
ル処最モ許多ナレハナリ儲テ諸般ノ物材ニ金銀ヲ供用セル割
合ニハ世間ノ有金高大ニ其利合ヲ變スル処ニ然テ而シテ

金ノ微標、鑲、鏡、腕環、留針等ノ所用ニ由テ多ク金銀貨ノ影響ヲ蒙テサルヲ得サルヲ蓋シ斯ル所用ニ関シテ或ハ裨益スル処アルモ殆ト徒費ニ属スル者ト云フヘシ
三十年以来金銀大ニ鑛産ヲ増シ屢々其相場ヲ変スルニ際シ法律上ヨリ時々金銀價ノ定位ヲ改メ以テ其變動ヲ防カント試ミタリ故ニ法律ヲ設クルニ於テハ頗ル其得失ヲ究明シタリキ諸
テ一千八百四十八年ヨリ一千八百六十五年ニ至ルマテアウス
タラリヤ州ニ於テ金鑛ヲ發見セシ以後金相場ハ次第ニ下落ヲ
保レ物價ニ當レル價値ヲ減シタリ而テ其頃銀鑛大ニ衰へ鑛産
ヲ減セシト虽モ銀相場ハ金貨ニ伴ヒ共ニ其價値ヲ落シタリ
然リ而テ斯ル急況ヲ起セシ者ハ法律上ヨリ金銀價ノ鈞合ヲ定
メテ一体ニ之ヲ拘束セシカ故金銀孰レモ其價格ヲ減シタルナ
リ

イ 三、五

政州ニ於テ佛蘭西ハ最モ正定ニ一千八百零三年金銀ニ関スル
價位ヲ定メレカ故一千八百七十四年銀貨鑄造高ノ制限ヲ令
シ其後一千八百七十六年銀貨ノ壅塞ヲ起セシ頃迄テ該國ハ曾
テ法律上ノ價位ヲ改メシトナレト虽モ此時ニ於テ竟ニ其法律
ヲ廢却シタリ
レユボンス氏ハ金銀ノ世上ニ増進スル趣ヲ比喻シテ曰ク別派
ノ泉流ヲ導キ之ヲ二個ノ儲水器ニ引ケハ各々其水高ヲ異ス可
レト虽ニ試ミニ一管ヲ兩器ニ通スレハ自他共ニ卒準スルヲ得
ヘレ金銀貨ノ制度ニ於ケルモ又然リ蓋シ法律ハ恰カニ其水管
ノ如ク金銀ヲ通シテ一体ト見做シ克ク其鈞合ヲ執テ金銀貨ノ
價位ヲ定ムルニ依リ貿易場ノ通用ヲ一樣ヲラシムルニ足ルモ
ノナリ
夫レ法律ハ直接ニ金銀ノ價ヲ支配スル者ニラズ此ヲ以テ間

本位ヲ設ケル邦國ニ於テ金銀僅カニ其相場ノ變、ルハ急得
ル者愈々需用ヲ増スニ後、高價ナル者益々需用ヲ減スルノ勢
成ラ加フルモノナリ而シテ金銀正ニ定位ノ點ニ歸着スル迄テ
各地ノ貿易場へ金銀孰レカ騰貴マシ者ガ増進スルニ至ル可シ
夫レ此ノ如ク需用ト供給ノ勢ハ明クニ其実價ヲ支配スルノ威カ
アルヲ覺知スヘシ

兩本位ヲ設ケル邦カ金銀ノ相場ニ関シ字内ノ貿易場ト抗衡ス
ル程ノ國カハ第一ニ金銀ノ融通高ニ在リ第二ニ金銀鑛産ノ割
合ニアルナリ今マ其委由ヲ言ハンニ凡ク金貨一億五千万串銀
貨二億五千万串ノ領帶ヲ備フル邦國ニ非スレハ決シテ字内ノ
貿易場ニ金銀孰レヲ輸出シテ以テ金銀孰レヲ輸入スルノ権カ
ヲ有スルニ足ラサルナリ是故ニ斯ル實カヲ有スル邦國ハ外國ノ
市場ニ於テ金銀孰レカ其相場ヲ變スルモ其國カハ以テ其變動

ヲ鑄造スルニ足ルニシテ然レハ九ツ邦國ノ貨幣ヲ備フル苟モ金
銀貨併テ四億万串ノ價額アレハ金銀貨ノ變動ニ際シ容易ニ
相場ヲ挽回スレテ得ヘシ其故如何ト云ヘハ價高キ處ノ貿易場
ニ其一半ヲ金銀孰レカヲ供給シテ他ノ一半ヲ需求スル餘カアル
ノ故ナリ

現ヨ往年金貨ノ貿易場ニ充溢マシ頃佛國ノ如キハ當時兩本位
ノ制度ナレハ金銀ノ通用上ニハ更ニ制限ヲ設ケルナクハ年間
ニ外國ヨリノ輸入金到底五億万串乃至七億万串程ヲモ収入シ
タルヘシ而シテ此價額ニ當レル銀貨ヲ輸出シ依然トシテ金銀
ノ兩本位ヲ維持シタリ
現今英吉利ハ金銀ノ融通高概畧六億万串ナリ而シテ佛蘭西ハ十
億万串ノ巨額アリト云フ備ニ金銀ノ所有高ヲ諸國ニ比較スル
ニ凡ク五億万串ノ額ハ最モ寡ナル都合ナリト云フハ合參國ハ

歳

斯ノ買額ヲ控シテ容易ニ紙幣ノ支消法ヲ奉行シ得ルニ俾
シ此價額ニハ素ヨリ金貨ト銀貨トノ多限高各々多ク免レス
ト虽モ現ニ斯ル國カヲ有スルハ紅^註歲銀貨ノ下落ニ會セシヨ
リモ或ハ今後金銀孰レカ下落ヲ起スヨリモ(外邦ノ需求ト供給
ニ依テ)一層大ニ金銀價ノ變動ヲ起スアルモ我々國ノ金銀價ハ
為ニ攪動ナルト処ナク依然トシテ其價位ヲ維持スルヲ得ベシ
多年ノ經驗ニ於テ既ニ其事實ヲ知レハ竝早學術上ノ論^註評ヲ述
ブルハ稍々切要ナラスト虽モ最モ其辨論ニ涉レル処ヲ畧言セ
シニ方今法律ヲ以テ金銀價ノ價位ヲ定メシク故金銀孰レカ非
常ノ剩分ヲ存スルモ世ノ需用ト供給ノ勢ハ殆ト其相場ヲ變ス
ルニ足ラサルヲ而テ又其法律ハ金銀價ノ價位ヲ支配スルノ
ミナラス金銀孰レカ剩分アレハ法制上ヨリ其價格ヲ減殺シ
以テ金銀價ノ釣合ヲ改メ自然ニ起レル需用ヲ此範圍ニ籠絡ス

ハルノ權畧ヲ掌トラシメタリ
一千八百六十五年佛蘭西、伊太利、瑞西、比利時ノ諸國ハ羅甸ニ始
テ大會議ヲ設ケ金銀ニ関スル價位ヲ議定シタリ之ヲ世ニ羅甸
ノ金銀價條約ト唱フルアリ儲テ當時ノ衆議ニ由テ其價位ヲ金
一ニ銀十五二分ノ一ト定メタリ尔後一千八百七十年迄テ同盟
ノ諸國ハ皆ナ此時ノ締約ヲ遵奉シ来レリ斯ノ如ク會議ヲ以テ
金銀價ヲ一定ミレカ故現ニ兩本位ヲ設クル邦國ハ同盟諸國當
時太ニ利益ヲ興セシテ覺知セシ処アルヘシ然リ而テ同盟ノ
諸國ハ歲月ヲ經ルニ從ヒ自然ニ其締約ヲ渝ユルノミナラス貿
易及ヒ貨幣ノ便宜ニ依リ豫メ私利ナル処アラント欲シ諸國皆
テ契約上ノ如何ヲ顧ミス勝手ニ金銀ノ價位ヲ改メルニ至ルリ
是ニ於テ各自ニ其便否ヲ考ヘ内國ニ金銀孰レヲ餘分ニ存スル
ヲ國益ト認ムルニ及ヘリ故ニ其便利ト認メシ者ノ外散スルヲ

恐レ法律上ヨリ殊更ニ其價値ヲ増シテ以テ輸出ノ妨ケント欲
シタリ在昔英國ノ銀相場カ暴々變動ヲ起セシ頃世ニ有者ナル
アイマツクニウトン氏ノ如キモ殆ト妄見ヲ免レサル処アリタ
リ則チ一千七百十七年同氏カ金銀價ノ定位ヲ論セシ報告書ニ
於テ願ル其價位ニ関スル利弊ヲ辨シ銀ノ輸出ヲ杜絶セシメ
レタリ

我カ法律ニ於テモ金銀價ノ定位ニ関シテ願ル謬妄ナレト云フ
可ラス一千七百九十二年始テ金銀ニ関スル價位ヲ金一ニ銀十
五ト定メシ者ハ金價ヲ減シ銀價ヲ騰上セシメント冀望セシカ
故アリ其後一千八百三十四年ノ改革ニ於テ其價位ヲ金一ニ銀
十六ト定メシ者ハ全ク其方向ヲ謬リタル処アリ然リト望ム当
時新ニ金礦ヲ發シ大ニ鑛産ヲ期望セシ頃ニテジョルンヤ州及
カロリナ州ノ人民ハ持テ此改革ヲ是認セシノミナラス國民

亦々金ノ融通ハ銀ヨリモ一層其流域窄ケレハ銀行紙幣ハ之
ヲ直ニ流通ヲ民間ニ止メサル可シト思惟シタリ
万国ノ公道ニ基キ各民ノ鴻益及テ義務ヲ皇張セント欲セハ各
國宜ク大盟約ヲ起シ金銀ノ兩本位ヲ設クルニ若カサルト果
シテ然ラハ金銀ニ関スル價位愈々正確ナルヲ以テ一般ニ裨益
アルヲ保証スルニ足レリ

欧州ノ諸國及テ合衆國カ造幣局ヲ鎖シ銀貨ノ鑄造ヲ止メシ時
陸續鑛坑ニ産スル地銀ハ殆ト尋常ノ物料ト具懸ヲ異スル処ナ
レ當時各國ハ皆テ銀貨ノ貿易場ニ充溢スルヲ恐レテ銀ノ融通
ヲ狭窄シテ以テ地銀ノ買賣ヲ提提セント欲シタリ然リ而テ此
時ニ方リ凡ソ一千万弗ノ地銀カ倫敦府ノ市場ニ沮滯スレハ忽
チ銀ノ相場ハ下落ヲ起スノ勢アリタリ
通例市場ニ於テ凡ソ急需ヲ要スルモノ
販賣ノ程度ハ常

ニ之ヲ購求スル有財人ノ資カハ配トニ關係
ヲ以テ倫敦ノ如キ大都會ト望モ斯ル時勢ニ際シ一千万串ノ地
銀ヲ其市場ニ輸セハ容易ニ販賣ノ道ヲキヲ知ル然ラハ金利及
ヒ雜費ノ所損ヲ免ルハ克ハナルナリ若シ之ニ反シテ銀價ヲ造
リ民間ニ散スル片ハ假令福小ノ邦國タルモ決シテ融通ヲ妨ク
ルヲ恐レナカル可シ夫レ此ノ如クナレハ曩ニ日耳曼カ金本位
ヲ設ケ銀價ヲ奪ヒシ時銀價ハ大ニ貿易場ニ充溢セント雖モ當
時若シ佛國ガ為ニ曰制ヲ變スルナリ貨幣ト地銀トヲ交換シテ
造幣局ノ鑄造ヲ止メサテレメハ却テ金銀價ノ定位ヲ變メサル
可シト思ハルナリ

年頃金銀ノ屢々價位ヲ變スルニ際シ各國皆テ造幣局ヲ鎖シタ
ノ故ニ斯レ其光ヲ起セシハ決シテ金銀價ヲ鑄造スルニハ
ルナリ是レ由テ之ヲ觀レハ更ニ兩本位ノ弊害アルヲ答ム

イ三九

可シ然ラク却テ銀價ヲ抑制メシ為メ妄ニ兩本位ノ制ヲ廢シ造
幣局ヲ閉鎖スルノ非挙タルヲ明識スルニ足レリ今ヤセル世運
ヲ一變シテ往時ノ好景況讀者按トルニ在昔各國カ兩本位
制度ヲ設ケシ時代ヲ云フナリニ進
マンニハ幾多ノ損害ヲ蒙ルヤ豫メ判知スル能ハサル知ナリ
佛國カ造幣局ヲ鎖シ銀價ヲ作ケント欲セシ者ハ外交ニ關セシ
一旦ノ驚慌ニ起レリト斷言ス可カラズ願フニ金本位ヲ主張ス
ル彼カ當時施政上ノ権カヲ得タルヲラン儲テ又年頃日耳曼カ
金本位ヲ設ケ銀價ヲ奪ヒシ時佛國ノ造幣局ニ收入シタル地銀
ハ頗ル夥多ナリト望ムカリホルニヤ州及ヒアラスタラリヤ州
ニ於テ金鑛ヲ發メシ後該國ノ造幣局ニハ一層大ニ金ノ輸送ヲ
起シタリ
一千八百七十三年以來歐洲諸大國ニ於テ唯々佛國ノ金銀
兩本位ヲ以テ盟約上ノ價位ヲ保持シタリト云フニ然リ而

テ莫吉利及ヒ日耳曼ハ素ヨリ諸大ノ邦ト云レテ列強坑ヨリ漸ク地金一億零一百万弗而テ地銀七千四百万弗ヲ産スルノミ令ヤ金相場ノ變動ニ際シ若シ佛蘭西カ特リ諸外國ノ改畧ニ反シテ銀價ノ鑄造ヲ盛ニスルハ英日ノ如キハ恐ク其國カハ以テ愈々金價ヲ騰上セシメ銀價ヲ下落セシムルニ足ラサルヘレ

佛蘭西及ヒ合衆國ノ如キハ他ノ國是ニ反シテ容易ニ銀ノ鑄造ヲ興シ貨幣ヲ發スルヲ得ヘシ然レモ地銀ト地金トノ交換セシカ為メ多以金貨ヲ外出スル処アル可シ然リ而テ兩國ハ孰レモ此方便ヲ執テナリレ者ハ全ク其實際ニ適セザリレ乎ヨク否ナ

一千八百四十八年以後ノ發鑄ニ関シテ大ニ世間ノ金融ヲ増シテ來ノ思思忍テ一變シテ專ラ旧法ヲ斥クルノ時勢ニ任シレテ改テナリ

銀ノ重量論ス

中古以來通高愈々感大ニ赴キ一層銀ノ需用ヲ増セシト云レ銀貨ハ特ニ運搬ノ勞アリ故ニ貿易場ニハ金銀孰レカ其輕便ナルモノヲ採用スルニ若カスト云フ者アリ余輩密ニ思フニ今運搬ノ道ハ通高ト共ニ改進セシメミナラス或ハ其捷便ノ通高ニ優レル処アリ蓋シ金銀ヲ各地ニ通傳スルニ於テ最ニ耗費ニ属スルハ海上ノ危険ニ在リトス而テ此變災ニ罹ハルヤ唯ク貴重ナル財宝ニ存シテ金銀ノ物体如何ニ關係アルトナレ且ツ又若干ノ銀塊ニ同價ノ金塊ヲ比スレハ銀ノ重量素ヨリ偉大ナルカ故若シ不幸ニレテ海底ニ没スルモ銀ノ失散スル割合ハ鮮少ナルモノナリ

諸ノ運賃ノ如キハ金銀ニ関シテ各別増減スル処ナシ而シテ又

諸般ノ取扱上ヲ視レハ金銀孰ク多ク煩勞ヲ免ルハ克ハス
蓋シ金銀債ハ專ラ僅々タル諸島定ニ用ユルニテ巨額ナル
貸借ニ至テハ証書ノ宜ニ簡便ナルモノアリ此ヲ以テ我々合衆
國ノ諸州ニ於テハ大蔵卿ノ允准ヲ經テ諸銀行ヨリ銀行紙幣ヲ
發行シタリ視ヨ今日市場ニ於テ取扱フ處ノ金債銀行紙幣ヲ指シテ
其實皆テ政府ノ預リ証券ヲラサルモノナレ而シテ人民ノ地金
ヲ以テ政府ニ銀行紙幣ヲ乞フ所ハ又地金ヲ貨幣ニ換ユル成規
ノ如ク違幣局ノ検査ヲ經テ後銀行紙幣ヲ授与サルハナリ斯ル
方法ヲ設ケシカ為メ紙幣ハ一層金銀債ヨリモ其融通ニ便ナル
ヲ覺知スルヲ得ヘシ合衆國ノ人民ハ殊ニ紙幣ノ民間ニ允テ可
カラサルヲ確信シタリ
今此地金銀ノ貨幣ニ變シテ保庇セントマハ寧ロ之ヲ紙幣
ニ交換シ國庫ノ保護ヲ受クルノ最モ堅固ナルニ若カサルナリ

101

而シテ斯ル紙幣ハ亦々通用上ニ差支フル處ナリ試ニ地
銀ヲ我々國庫ニ托シテ公債證書ヲ受領マシニ具體裁及ニ其取
扱ニ便ナル趣ハ地金ニ換エシ公債証書ト毫モ其効用ヲ異ニテ
サルナリ
シユボンズ氏ノ言ルアリ今ヤ之ヲ次條ニ述ニ二百零三葉貨幣
器械的ト題ス
ルル見
今文明ノ諸國ニ於テハ一般ニ紙幣ノ通用ヲ是認スルニ至
レリ蓋シ金銀債ノ物体タルヤ稍々運搬ニ便ナラサル處ナレ
ハ未タ煩勞ヲ免レサルモノアリ

大
錢
省



